

## 巻末資料

### 大学入学共通テスト問題評価・分析委員会 外部評価分科会の外部評価

大学入学共通テストは、「大学への入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的」とした試験として実施されている。このことに照らし、令和3年度大学入学共通テスト（1月16日・17日）の試験問題について、以下の項目別（8項目）及び総合的観点から適切であったかを、枠内の評定値により4段階で評価した。

#### 1 項目別評価

- (1) 問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め、バランスのとれた出題となっている（出題のねらい）
- (2) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されており、特定の分野・領域に極端に偏っていない（出題範囲）
- (3) 出題される資料等<sup>※1</sup>が、特定の教科書に偏っていない（題材）
- (4) 高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定<sup>※2</sup>がなされた問題が含まれており、その場面設定が、教科・科目の本質に照らし必然性のある形で出題されている（問題の場面設定）
- (5) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である（問題構成）
- (6) 文章表現・用語は適切である（表現・用語）
- (7) 問題の難易度は適正である（難易度）
- (8) 得点のちらばりは適正である（得点のちらばり）

※1 教科書等で扱われていない初見の資料等を扱う場合には、その資料そのものの知識を問うのではなく、高等学校で身に付けた知識や思考力等を問うための適切な題材として扱うことができるためこの限りではない

※2 授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など

#### 2 総合評価

1の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入学共通テストの試験問題として適切である

(評定値)

- 4 あてはまる
- 3 ある程度あてはまる
- 2 あまりあてはまらない
- 1 あてはまらない

科目名	国語
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	知識の理解の質を問う問題や思考力等を発揮して解く問題の出題も含め、おおむねバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	適切に出題されている。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	高校生の学習過程や高等学校における国語科の授業を想定した出題となっており、高校生の日々の学習や教員の授業改善に向けたメッセージ性のあるものとなっている。
(5)問題構成	4	高等学校で身に付けた知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランス良く構成されている。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は素材文，選択肢群ともに適切である。
(7)難易度	4	高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度や，大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を判定する上で，難易度は適切である。
(8)得点のちらばり	4	出題内容と難易度を踏まえ，バランス良く配点されている。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として，高等学校学習指導要領において育成を目指す資質・能力について，その達成の程度を判定する試験問題として適切である。

科目名	世界史A
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	2	単純な知識問題は減少し、出題に対する工夫が見られた。知識の活用や読み取りといった、「技能」を問うものが多く、「思考」を評価する出題とは言い難かった。「知識問題の良化」から一歩進めるために、世界史における「思考」とは何か、今一度検討いただきたい。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領に対して適切であった。ここで設けられている範囲や題材という観点、内容についてのものであり、資質・能力を問う出題へ向けて、観点自体の見直しが必要と思われる。
(3)題材	4	使用されている資料等の題材は適切であった。ここで設けられている範囲や題材という観点、内容についてのものであり、資質・能力を問う出題へ向けて、観点自体の見直しが必要と思われる。
(4)問題の場面設定	2	先生と生徒の会話など、形式上は学びの場面の設定に対する工夫が見られたが、設定された場面や出題された設問が効果的でないため、思考のプロセスを評価するものになっていなかった。
(5)問題構成	4	設問数や配点、設問形式等は適切であった。「思考の評価」に向けて、問題の質の面でさらなる向上を期待したい。
(6)表現・用語	3	おおむね適切であった。新しい出題形式による設問に際しては、より一層慎重な表現が求められる。
(7)難易度	4	難易度は適切であった。
(8)得点のちらばり	3	おおむね適正な分布であった。個々の小問に対し、問題のタイプ（知識・読み取り・活用等）ごとに正答率を算出し、受験者の得点の差がどういった問題で出来たのかを検証していただきたい。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	出題方法等において大きな変化があり、工夫がなされていたことは評価に値する。「思考」を評価する問題の在り方について、更なる検討と改善をお願いしたい。

科目名	世界史B
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	2	単純な知識問題は激減し、工夫を凝らした出題が多く見られるが、それらの出題も「技能」段階で止まっているものが多く、十分な「思考」を問う出題に関しては、まだ多くの工夫の余地がある。
(2)出題範囲	4	特に大きな問題は感じられなかったが、ここで設けられている範囲や題材という観点は、「知識内容」についてのものであり、「思考」を問う出題へ向けて、観点自体の見直しが必要と思われる。
(3)題材	4	特に大きな問題は感じられなかったが、ここで設けられている範囲や題材という観点は、「知識内容」についてのものであり、「思考」を問う出題へ向けて、観点自体の見直しが必要と思われる。
(4)問題の場面設定	3	工夫のある場面設定が多く見られたが、その設定が設問において必ずしも効果的でなかったり、設定のみが先んじて、設問自体の工夫が十分になされない部分があった。
(5)問題構成	4	設問数や配点、設問形式等は適切であった。
(6)表現・用語	4	表現・用語は適切であった。
(7)難易度	4	難易度は適切であった。
(8)得点のちらばり	2	得点状況は正規分布ではなく、上位層への集中が見られる一方で、下位層も存在する。上位層を振り分ける高度な思考問題、下位層でも得点できる読取り問題の出題などのバランスが求められる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	従来とは違った大きな工夫がみられた出題であるが、その工夫ゆえに生じた問題があることや、「思考」を評価することへ向けた発展途上の段階にあることを踏まえ、このように評価した。

科目名	日本史 A
-----	-------

## 1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1)出題のねらい	3	思考力・判断力・表現力等を問う問題，知識・理解を問う問題，それぞれがバランスよく出題されていた。思考力・判断力・表現力等を用いて解くのか，知識・理解を用いて解くのか，出題の意図をより明確にしたほうが良いように感じた問題がいくつかあった。
(2)出題範囲	4	やや細かな知識を問う問題もみられたが，おおむね適切な範囲からの出題がなされていた。また，時代・分野についても横断的かつバランスよく出題されていた。
(3)題材	4	人物史，制度史など様々な題材や資料を切り口に，日本近現代史の各時代・分野を横断的に問う工夫がなされていた。
(4)問題の場面設定	4	レポート発表・調べ学習といった実際のアクティブな学習活動を想定した場面設定がなされることで，様々な角度から思考力・判断力・表現力等や知識・理解の質を問う工夫がなされていた。
(5)問題構成	3	おおむね設問数，配点などは適切であった。思考力・判断力・表現力等を問う問題が増えたことで，受験生が読む問題文・資料の分量が大幅に増えた印象が強い。もう少し分量を精査する必要があると感じる問題もあった。
(6)表現・用語	4	受験生が理解することが困難と思われる文章表現・用語等は特になかった。
(7)難易度	4	思考力・判断力・表現力等を問う問題はいずれも丁寧に問題文や資料を読み込めば十分に判断が可能である。知識・理解を問う問題についても基礎的な内容が定着していれば判断できるものがほとんどであり，日本史 A の受験者の実態をふまえても適切な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	得点の分布はおおむね正規分布を示しており，適切な得点のちらばりであると考えられる。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	新学習指導要領をふまえ，思考力・判断力・表現力等や知識・理解の質を問うことに重点を置くという姿勢が明確に伝わってきた問題であった。一方で，従来通り，基本的な学習の程度を問う姿勢も十分伝わってきたことで好感を持てた。出題形式や題材なども工夫されており，様々な方法で受験生の思考力・判断力・表現力等や知識・理解を問うことに成功した良問であったと評価できる。

科目名	日本史B
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基本的な知識の正確な理解や基礎的な力を問い、受験生の培ってきた力や理解を評価するというねらいは現在にふさわしいものであり、また出題の仕方也非常に工夫されたものであった。
(2)出題範囲	3	時代別、分野別にみてもバランス良く出題されていた。
(3)題材	4	時事的な題材である貨幣、身近な題材である儀式・儀礼、正確に学ぶべき題材である女性史など、適切な題材であった。
(4)問題の場面設定	3	舞台として、学校に加えて学校以外の場も設定されたことを評価したい。発表のための調査や、実際の発表といったシチュエーションも適切であり、示唆を与えてくれるものであった。
(5)問題構成	3	内容・範囲・分量・程度・形式、いずれにおいても適正であった。
(6)表現・用語	3	表現に難解なものはなく、形式は様々な工夫が凝らされており、適正であった。 用語も、極端に難解なものはなく、適切であった。
(7)難易度	3	問題に極端に難易度の高いものはなく、適正であった。
(8)得点のちらばり	3	偏りがなく、適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	新たな形態のテストとして多く注目される中、適正かつ公正なテストであったと考える。受験生や教育現場の教師、生徒にとっても強いメッセージ性があった。

科目名	地理A
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	全体として知識の理解の質や思考力などを問う問題の出題がみられ、地理に関わる事象を多面的・多角的に考察したり、諸課題の解決に向けての構想を問う構成となっており、バランスが良い。
(2)出題範囲	3	高校生の学習内容の中からの出題となっており、おおむね適切である。ただし、一部の問題の中には、地理Aで取り扱う内容を超えていると思われるものも見られ、改善をお願いしたい。
(3)題材	4	出題されている題材は、特定の教科書等の偏りは見られず、適正である。写真や地図等の資料は高校生の興味を引くものとなっており、今後も題材の工夫を継続していただきたい。
(4)問題の場面設定	4	大問2・3・5で場面設定が行われている。いずれも実際の授業で広く一般に行われていると言え、適切である。とくに第2問は資料1から生徒自ら問いを引き出す展開になっていることが評価できる。
(5)問題構成	4	設問数が34から30に減り、配点も最高4点とセンター試験と異なっているが、思考の過程に重きを置くという問題作成の方針に沿っており適切である。
(6)表現・用語	3	地理の特徴として、地図や図表から考察する設問が主であるが、受験生にとって初見のものも多いことから、正確に読み取ることができるようにさらなる工夫をお願いしたい。
(7)難易度	4	大問1つにつき1問程度やや難易度の高い設問もあったが、平均点は59.98点であり、全体的には適正なものであった。設問1つに要する時間が伸びた分、設問数を削減するという適切な配慮がなされていた。
(8)得点のちらばり	4	得点の散らばりは正規分布に近いものであったことから、適正であったと評価できる。受験者は1,952人であったが、最高点は97点で満点を取った受験生はいなかった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	共通テスト初年度であり、作問には多大な時間と労力を要したと推察するが、「知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題する」という共通テストの意図が確実に反映された問題となっていた。

科目名	地理B
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	複数の資料を組み合わせた出題も多く、資料を丁寧に読み取り、地理的な思考力や判断力を発揮して解くことが求められる問題が出題されている。受験生の能力を適切に評価できる出題である。
(2)出題範囲	3	系統地理の分野は、おおむね高等学校学習指導要領を踏まえた幅広い分野・領域から出題されている。比較地誌の大問がなくなり、地誌の分野から出題される地域が限定的になっている。
(3)題材	4	題材や資料に教科書による偏りはみられない。教科書では扱われない、初見となる資料が多用されている。しかし、それらの多くは高等学校の学習で得た知識の理解や思考力を発揮して解く問題であり、適切な題材である。
(4)問題の場面設定	4	二つの大問で、高等学校での学習の過程を意識した問題の場面設定がなされている。探究活動の場面設定で、出題分野の学習の理解を進めていくストーリー性がある。
(5)問題構成	4	大問5題、小問32問で構成されている。すべての問題に資料が使用され、多面的・多角的に思考・判断しながら「地理的な見方や考え方」を働かせることができているかを問う問題で構成されている。よく練られた良問が多く、適切な問題構成となっている。
(6)表現・用語	3	問題の文章や用語、図表の表現はおおむね適切である。新旧地図を比較する問題では地理院地図が使用され判別しやすくなっている。一方で、図幅の都合で図が小さく必要な情報を読み取りにくい問題や資料の扱い方に受験生の誤解を招くような問題もある。
(7)難易度	3	平易な問題がある一方、資料の分析や解釈に苦慮する難問もあるが、問題の多くは、高等学校における学習の成果を発揮して解く良問である。平均点は60.06で、難易度はおおむね適正である。
(8)得点のちらばり	3	得点分布は正規分布であるが、標準偏差は14.68で小さく、高得点を取りにくい試験である。学力の識別性を高めるためにも、高得点者の数が適度に出る問題作成が望まれる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。問題作成方針に示された、高等学校での学習の過程を意識した問題の場面設定が導入され、多様な資料を用いて、知識の理解を問う問題や思考力・判断力を発揮して解く問題も重視されている。総合的にみて「地理的な見方や考え方」を働かせて解く試験問題で良好である。

科目名	現代社会
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や思考力等を発揮して解く問題の出題も含め、バランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	適切に出題されている。
(3)題材	3	出題される資料等が特定の教科書におおむね偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	教科・科目の本質に照らして必然性のある形で出題されている。
(5)問題構成	3	試験問題の構成はおおむね適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切である。
(7)難易度	3	問題の難易度はおおむね適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。

科目名	倫理
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	知識の理解の質を問う問題や思考力等を発揮して解く問題の出題も含め、おおむねバランス良く出題されている。今後はさらに知識を活用して考察する設問の増加を期待したい。
(2)出題範囲	3	おおむね適切に出題されている。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	3	教科・科目の本質に照らして必然性のある形でおおむね出題されている。今後は、さらに多様な学習の過程を意識した作問を期待したい。
(5)問題構成	4	試験問題の構成は適切である。今後、分野横断的な設問の増加を期待したい。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切である。
(7)難易度	2	問題の難易度はやや不適正である。今後は、知識を踏まえた思考力等を発揮させる設問の工夫を期待したい。
(8)得点のちらばり	2	得点のちらばりはやや不適正である。今後は、選択肢の作り方の工夫や、知識を踏まえた思考力等を発揮させる設問の工夫等により、正答率50%～60%の設問の増加を期待したい。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	全体としておおむね適切な試験である。今後、問題作成方針に沿ったさらなる工夫を期待したい。

科目名	政治・経済
-----	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識とグラフや表の読取の技能，文章の読解を組み合わせた問題が複数出題されており，全体のバランスは良い。
(2)出題範囲	3	おおむね良いが，経済分野の出題が例年よりも多かった。解答には直接関係ないが，第4問の探究の場面設定は，高等学校教育現場ではなじみの薄い設定であった。
(3)題材	4	題材や資料に偏りはなかったが，経済分野の出題について難易度が高かった。全体としては適切であったといえる。
(4)問題の場面設定	3	主体的・対話的で深い学びを目指す授業場面が意識されているように感じた。特に探究学習の手順に関する設定は，高等学校教育現場で対応が難しいものであるが，授業改善に向けてのメッセージとなった。
(5)問題構成	4	文章だけでなく，表や図を読み取る問題があり，バランスは良いが，資料の読取だけで解答できる問題（第2問の間3）は国語力の問題と言われてしまうのではないか。
(6)表現・用語	4	読解力を問う問題や計算を伴う思考力の問題を取り入れたことによりリード文は短くなったが，各設問文が長くなり，これまで以上に時間がかかる問題になっている。
(7)難易度	3	1つ1つの問題の難易度は標準的なものが多く，回答数は昨年よりも少ないが，複数の資料や表から解答を導き出す問題があるため，時間が掛かると思われる。
(8)得点のちらばり	3	正規分布に近い形となっているが頂点が低いことが課題と言える。データの的には適切だったと思われる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	知識・技能や思考力・判断力・表現力等がバランス良く問われており，政治・経済の学習内容として適切であり，工夫された良問であるといえる。

科目名	倫理, 政治・経済
-----	-----------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や, 思考力・判断力・表現力等を問う問題が出題されており, おおむねバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	3	おおむね適切に出題されている。解答には直接関係ないが, 第7問の探究の場面設定は現行学習指導要領ではなじみの薄い設定であった。
(3)題材	4	題材や資料に偏りがなく, 全体としては適切であったといえる。
(4)問題の場面設定	3	主体的・対話的で深い学びを目指す授業場面が意識されているように感じた。特に探究学習の手順に関する設定は授業改善のメッセージとなる。
(5)問題構成	4	試験問題の構成はおおむね適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切である。
(7)難易度	3	一部易しい問題が含まれているが, おおむね標準的な難易度のものが多く, 全体として, 難易度は適切であったと考えられる。
(8)得点のちらばり	3	おおむね正規分布に近く, 適切であったと思われるが, 得点のちらばりがやや大きいこと, 頂点が低いことが課題と言える。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	知識・技能・思考力・判断力・表現力等がバランス良く問われており, 全体として適切であり, 工夫された良問であるといえる。

科目名	数学 I
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず，日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や，数学を活用した問題解決に向けて，構想・見通しを立てる力，解決過程を基に，得られた結果を意味づける力を問うており，育成することを目指す資質・能力に焦点を当てており，バランスがとれている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており，設問内容も指導要領の範囲内であるとともに，その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	学習の過程を意識した問題の場面設定がなされた問題が含まれており，教科・科目の本質に照らして適切である。
(5)問題構成	3	設問形式は適切であった。配点も概ね適切であったが，一部に配点の妥当性について検討していただきたい設問がある。
(6)表現・用語	4	理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく，適正である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	平均点と標準偏差に鑑みた結果，分布はほぼ正規分布に従っており，得点の散らばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度が適切であるとともに，数学的な問題解決の過程を重視し，育成することを目指す資質・能力に焦点をあてたものである。基礎的な学習の程度を判定し，大学教育を受けるために必要な能力について把握する試験として適切である。

科目名	数学 I ・ 数学 A
-----	-------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず，日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や，数学を活用した問題解決に向けて，構想・見通しを立てる力，解決過程を基に，得られた結果を意味づける力を問うており，育成することを目指す資質・能力に焦点を当てており，バランスがとれている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており，設問内容も指導要領の範囲内であるとともに，その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	学習の過程を意識した問題の場面設定がなされた問題が含まれており，教科・科目の本質に照らして適切である。
(5)問題構成	3	設問形式は適切であった。配点も概ね適切であったが，一部に配点の妥当性について検討していただきたい設問がある。
(6)表現・用語	4	理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく，適正である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	平均点と標準偏差に鑑みた結果，分布はほぼ正規分布に従っており，得点の散らばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度が適切であるとともに，数学的な問題解決の過程を重視し，育成することを目指す資質・能力に焦点をあてたものである。基礎的な学習の程度を判定し，大学教育を受けるために必要な能力について把握する試験として適切である。

科目名	数学Ⅱ
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基本的な事項の知識や理解，一定の手順に従って数学的に処理する技能を問う問題に偏ることなく，問題解決に向けて見通しを立てる力や，数学的な問題解決の過程を振り返り，得られた結果を既知の知識と統合して考察するなどの思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランス良く出題されており，問題作成方針に沿った内容である。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から，特定の分野・領域に極端に偏ることなく，適切に出題されている。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	3	数学的な問題解決の過程を重視した場面が設定されているが，どのような学習場面を想定しているのか意図しにくいものもある。
(5)問題構成	3	数学的に考える思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置されているが，設問や誘導が丁寧すぎるものもある。
(6)表現・用語	4	理解しがたい表現や誤解を与える表現・用語もなく，適切である。
(7)難易度	4	基本的な問題から標準的な問題まで幅広く出題されており，問題の難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	平均点は39.51，標準偏差は18.75で分布はほぼ正規分布に従っている。得点の散らばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	設問や誘導が丁寧すぎる傾向はあるが，出題範囲や難易度は適切であり，数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり，基礎的な学習の達成度を判定する試験として適切である。

科目名	数学Ⅱ・数学B
-----	---------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基本的な事項の知識や理解，一定の手順に従って数学的に処理する技能を問う問題に偏ることなく，問題解決に向けて見通しを立てる力や，数学的な問題解決の過程を振り返り，得られた結果を既知の知識と統合して考察するなどの思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランス良く出題されており，問題作成方針に沿った内容である。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から，特定の分野・領域に極端に偏ることなく，適切に出題されている。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	3	数学的な問題解決の過程を重視した場面が設定されているが，どのような学習場面を想定しているのか意図しにくいものもある。
(5)問題構成	3	数学的に考える思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置されているが，設問や誘導が丁寧すぎるものもある。
(6)表現・用語	4	理解しがたい表現や誤解を与える表現・用語もなく，適切である。
(7)難易度	4	基本的な問題から標準的な問題まで幅広く出題されており，問題の難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	平均点は59.93，標準偏差は23.63で分布に少し偏りがあるが得点の散らばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	設問や誘導が丁寧すぎる傾向はあるが，出題範囲や難易度は適切であり，数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり，基礎的な学習の達成度を判定する試験として適切である。

科目名	簿記・会計
-----	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基礎的内容から応用的内容まで網羅されており，知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題を含め，バランスの良い出題である。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されており，特定の分野・領域に偏っておらず適切である。
(3)題材	4	資料等は，特定の教科書に偏っておらず適切である。
(4)問題の場面設定	3	先生と生徒が会話しながら簿記・会計の理解を深めていく様子は適切であるが，会話の内容が飛躍する部分があり，より要点を絞った会話が望ましかった。
(5)問題構成	3	基礎的内容の出題と応用的内容の出題でバランス良く構成されている。一方，読み取りに手間が掛かり，やや解答時間に不足が生じている傾向が見受けられる。設問数，配点，設問形式等試験問題の構成は適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は，教科書の一般的な表現を使用しており，適切である。
(7)難易度	4	平均点は昨年度よりも下がったものの，難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは，おおむね正規分布に近い形を示しており，適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	上記の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると，大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名	情報関係基礎
-----	--------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	情報に関する基礎的科目での科学的な知識・理解の質、思考力・判断力・表現力等といった学力の要素を踏まえ、課題解決を進めていく過程の出題がなされている。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲から、基本的な内容からそれを活用する内容まで、特定の学科の学習内容に偏らず出題されている。
(3)題材	4	特定の学科の内容や教科書の内容に偏ることなく、どの学科に属した受験者であっても、出題の内容を読み取れる題材である。
(4)問題の場面設定	4	基本的な知識を用いて、日常生活の中の課題を解決する手順や方策を考える場面が設定されており、適切であった。
(5)問題構成	4	共通問題2問必答、選択問題より1問選択という形式は、学科ごとの学習内容の差異を鑑みて適切である。ただ、解答形式の混在により受験者が混乱した可能性がある。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。文章だけでなく図や表を示すことで、受験者が出題の内容を適切に考えられるような配慮がなされていた。
(7)難易度	3	解答に時間が掛かる問題も見られたが、受験者の資質・能力を測定する上で適切であった。第3問と第4問の難易度の差が少しでも解消されるようお願いしたい。
(8)得点のちらばり	4	平均点、標準偏差の値から適切な分布であった。また出題範囲、難易度、受験者の実態からも適切である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	以上の観点踏まえて、知識・理解の質、思考力・判断力・表現力等を問う大学入学共通テストの試験問題として適切であった。

科目名	物理基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等が求められる問題がバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されており、幅広い分野・領域から偏りなく出題されている。
(3)題材	4	基礎・基本を問う問題に適切な題材として、実験結果のグラフや資料等が取り上げられており、特定の教科書等に偏ったものではない。
(4)問題の場面設定	4	科学の探究の過程を意識した場面設定がされており、日常生活との関連を適切に結び付け必然性ある形で出題されている。
(5)問題構成	4	試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は、試験時間や受験者の学習状況と照らし合わせて適正である。
(6)表現・用語	3	文章表現・用語・図はおおむね適切であり、理解しにくい表現はなかった。ただし、一部の図は誤解が生じないように、検討の余地がある。
(7)難易度	4	平均点が過去5年間で最も高い結果であったが、基礎的、標準的な問題を中心に、探究的な問題も適度に含まれており、難易度としては適正である。
(8)得点のちらばり	3	上位層の得点に若干偏りが生じたため、得点のちらばりはやや偏りのあるものであったが、得点範囲を広めに考えるとおおむね適正であり、選抜試験に資するものである。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の到達の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力を把握する目的を達成しており、大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名	物理
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等が求められる問題がバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	3	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されているが、力学は、出題分野にやや偏りがみられた。
(3)題材	4	基礎・基本から探究的な問題を扱うために適切な題材として、物理現象やグラフ等が取り上げられており、特定の教科書等に偏ったものではない。
(4)問題の場面設定	3	科学の探究の過程を意識した場面設定がされており、日常生活との関連を適切に結び付けた問題も出題されていた。一方で、その上でボールを受け取るといった日常の場面から乖離した設定もみられた。
(5)問題構成	3	思考力を測る問題量の多さや教科書で取り扱わない場面設定が多く、試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は、試験時間や受験者の学習状況と照らし合わせて検討の余地がある。
(6)表現・用語	3	文章表現・用語・図はおおむね適切であり、理解しにくい表現はなかった。ただし、文章や図は誤解が生じないように、検討の余地がある。
(7)難易度	4	探究的で思考力を問う設定が多く含まれていたが、基礎的、標準的な問題が中心となっており、難易度としては適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であり、選抜試験に資するものである。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の到達の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力を把握する目的を達成しており、大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名	化学基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識・技能のみならず，思考力・判断力・表現力等も重視されており，高等学校における基礎的な学習の達成の程度を判定し，大学教育を受けるために必要な能力を測るための問題として適切であった。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領に示された範囲から出題されていた。
(3)題材	4	大学入学共通テスト問題作成方針にあるとおり，教科書等で扱われていない題材が出題されたが，初見でも解答ができるように丁寧に問題文・関係式・図を用いた説明があった。
(4)問題の場面設定	3	実験・観察を題材とし，得られたデータを扱う問題が出題されたが，学校での学習の過程を踏まえた場面設定を意識した問題形式としては工夫の余地があった。
(5)問題構成	4	第1問は小問集合問題，第2問は一つの題材に関する総合問題であった。小問数は10，解答数は15であった。当てはまる数値そのものを選んでマークする解答形式の出題があった。
(6)表現・用語	4	全体として，高校生にも分かりやすい表現が用いられており，理解しやすいものであった。
(7)難易度	3	平均点が24.65点(49.30%)と低く，理科①の他の科目と比べても，大幅に低い。特に第2問はリード文が長く，読解力が必要なことに加えて，思考力と判断力が求められ，難度が高かった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	大学入学共通テスト実施大綱のとおり，「知識・技能のみならず，思考力・判断力・表現力等も重視して評価を行う」ために，学習指導要領の範囲内で工夫され，随所に受験者への配慮が見られた適切な問題であった。

科目名	化学
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	思考力・判断力・表現力等を測ることも重視されており，高等学校等の段階における基礎的な学習の達成の程度や，大学教育を受けるために必要な能力を把握する問題として，適切であった。
(2)出題範囲	4	「物質の状態と平衡」，「物質の変化と平衡」，「無機物質の性質」，「有機化合物の性質」から幅広く出題されており，学習指導要領に示された範囲を網羅していた。
(3)題材	4	題材の多くが学習指導要領で示された内容からの出題であった。「受験者にとって既知でないもの」からの出題もあったが，問題文で丁寧に説明されており，受験者への配慮がうかがえた。
(4)問題の場面設定	3	学習の過程を踏まえた問題が含まれており，大学入学共通テストの趣旨に沿っていた。今後については，実験結果の考察やレポート等を題材とするなど，検討をお願いしたい。
(5)問題構成	4	第1問から第4問までは分野別の出題であり，第5問は総合的な問題であった。受験者の基礎的，標準的な理解度を測ると同時に，より高度な思考力・判断力・表現力等を定量的に測定するという観点において，適切であった。
(6)表現・用語	3	問題文が長くなっているものの，化学的な変化や実験操作等を丁寧に説明しているためであり，受験者に対する配慮がうかがえた。一方，大学入試センター試験では掲載されていた図やグラフが省略されていた問題が散見され，受験者の負担も大きかった。
(7)難易度	3	より高度な思考力・判断力・表現力等を測る問題も含まれており，全体として難化したと思われる。また，得点調整となったことは避けるべきであり，科目間の難易度の調整をお願いしたい。
(8)得点のちらばり	4	得点調整前の平均点は51.06点（昨年度は54.79点），標準偏差は20.92（昨年度は22.59）であった。全体として，おおむね正規分布しており，得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	「化学」の各分野から幅広く，偏り無く出題されており，学習指導要領に準拠した，受験者の化学に関する理解度を定量的に評価できる適切な問題であった。加えて，大学入試センター試験における問題評価・改善を踏まえた受験者への数多くの配慮が感じられた。

科目名	生物基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成の趣旨を踏まえ、基本的な知識の理解を問う問題、理解した知識を活用する問題、思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題が、バランス良く出題されていた。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領に準じた内容から偏りなく出題されていた。
(3)題材	4	社会生活や日常生活の中の課題を解決するために、高等学校で身に付けた知識や思考力等を問う題材が取り上げられており、作成方針を踏まえた題材が取り上げられていた。
(4)問題の場面設定	4	実験計画について考察する場面や、資料やデータ等を基に考察する場面など、「身近な課題等について科学的に探究する」という作成方針に沿った場面設定がなされていた。
(5)問題構成	4	解答する大問数は3題で例年と同じであった。解答数は第1問が6、第2問が5、第3問で5であり、合計は16で昨年度より7減少した。思考力・判断力を要する問題が増加したため、解答数は妥当であった。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語については適切であり、正解を導くのに必要かつ効果的なものであった。
(7)難易度	3	問題の難易度は適正である。ただ、難易度の高い問題はほとんどが知識問題で、平易な問題はほとんどが思考力・判断力・表現力等を要する問題であった。全体の難易度のバランスは変えずに、思考力・判断力・表現力等を要する問題で発展的な出題が増えると更に良い。
(8)得点のちらばり	4	適度に広がりをもった正規分布をしており、得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	受験者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とした大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名	生物
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や思考力等を発揮して解く問題、いずれも工夫があり、両者のバランスも適切である。
(2)出題範囲	4	学習指導要領からの逸脱もなく、また、分野の偏りもなく適切に出題されている。
(3)題材	4	資料等は教科書の基礎的なトピックから学術雑誌に公表された新しい知見まで、バランス良く適切に採択されている。
(4)問題の場面設定	4	生徒による探究活動を想定した場面や、得られた知識からそれまでの学習を整理する展開があり、適切な場面設定である。
(5)問題構成	4	設問数は27問であり、1問当たり平均して約2分の解答時間が与えられている。配点も平均的な配分かつ部分点も存在している。マークシートを使った設問の形式としても適切である。
(6)表現・用語	3	第3問において「葉群」という表現は高校生物学においては余り使用されない。第6問B図2において、凡例ではなく矢印で表示されており、勘違いする受験者がいる可能性がある。以上2点以外はおおむね適切である。
(7)難易度	2	難易度としては平易であった。問いの中では、選択肢の正答を選びやすいものはいくつか見られた。場面設定の説明が詳しすぎるため、読解力があれば生物学の知識を必要としないものも見られた。第3問 問3の計算問題においても、問題文中に計算方法が示されており、思考力を必要としていない。
(8)得点のちらばり	3	標準偏差は18.56であった。ちらばりはあったものの、平均点が72.64であることから、81点以上の得点者が全体の3割から4割おり、高得点者が多く存在したと考えられる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	全体として、志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とした大学入学共通テストの試験問題としておおむね適切である。

科目名	地学基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	高等学校で学習した，基礎的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題作成であった。また，各分野・領域からおおむねバランス良く出題されていたが，強いて言えば「天体」の分野に若干出題内容が偏っていた。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領に基づく「地学基礎」の範囲内から適切に出題されていた。
(3)題材	4	特定の教科書に偏っていなかった。
(4)問題の場面設定	4	探究活動の観察，実験の場面を取り入れた設問が見られた。また，実験結果を基に，仮説を検証する設問も見られた。また，日常生活で起こりうる，台風災害の高潮について考察する設問も見られた。
(5)問題構成	4	試験問題の構成（設問数，配点，設問形式）は適切であった。設問形式では，図やグラフ，写真などを効果的に用いた設問があった。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語はおおむね適切であった。
(7)難易度	4	基本的な知識を問う設問だけではなく，知識を基に応用力や思考力を必要とする問題が数多く出題されたが，設問としては易しいものであったため，問題の難易度は適正な範囲内であった。
(8)得点のちらばり	3	理科①の4科目の中で2番目に標準偏差が小さく，得点のちらばりがやや小さい問題であった。今後は，この点にも配慮した出題をお願いしたい。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験であった。 「地学基礎」の学習達成度を測るため，基礎知識・科学的な思考力・判断力・応用力を総合的に問う問題で構成されており，高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定する，大学入学共通テストの問題として適切であった。

科目名	地学
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、基礎的・基本的な設問や思考力・判断力・表現力等が必要な設問が、バランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題され、「地学」の4分野からバランス良く出題されていた。
(3)題材	4	特定の教科書や資料集に偏りが無い。見かけない図表・グラフが使用されているが、高等学校で身に付けた知識や思考力を問うために適切に設定されている。
(4)問題の場面設定	4	探究活動や観察・実験、野外実習を意識した設問があり、適切である。
(5)問題構成	3	問題文の量は適正である。選択肢の数等はおおむね適切であった。小問群の設問は初めてであった。しかしながら、何段階かの思考力を求める問題が増えたので、それを踏まえた設問数に調整してほしい。
(6)表現・用語	4	文章表現は、教科書を基にしたものでおおむね適切であるが、一部使用されていない用語が使用されていた。
(7)難易度	2	思考力、判断力を用いる設問が増えたが、基礎的事項を確認する設問も増加したことで昨年度よりやや易化したが、理科②間で比較すると難易度は高めであったといえる。
(8)得点のちらばり	3	標準偏差から考えると得点のちらばりはおおむね適正であるが、平均点が低いため、理科②としてはばらつきが大きくなっている。若干の工夫が必要である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	総合的に評価すると、大学入学共通テストとしておおむね適切である。しかしながら、高等学校での「地学」の授業の展開状態、履修者の状況、理科②の他科目とのバランスなどを考えると、受験者に対して高度な学習の達成度を測る試験である。

科目名	英語（リーディング）
-----	------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	センター試験の「英語（筆記）」と異なり，高等学校学習指導要領にあるように，外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの知識を，実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としている。
(2)出題範囲	4	ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に，CEFRレベルにふさわしいテキストと設問が設定されており，A1からB1レベルに相当する問題
(3)題材	4	プレゼンテーション，スライド・ポスター作成を含む，日常の英語コミュニケーションでよく使用されるものを含むものを従来の題材に加えた形
(4)問題の場面設定	4	授業内での活動を意識した設定で，プレゼンテーション，スライド作成，ポスター発表，問題解決など，ただ単に読んで内容を理解するだけにとどまらず，発展的に情報を発信したり，誰かに情報を伝えたり，表現するといった様々な設定
(5)問題構成	3	6問構成。問題（英文と資料）量に対して設問の数が少ないものもある。
(6)表現・用語	4	専門用語の使用。イギリス英語とアメリカ英語以外のものも含まれても良いか。
(7)難易度	4	
(8)得点のちらばり	4	

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	

科目名	英語（リスニング）
-----	-----------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	概要や要点を的確に把握する力を測る問題や、聞き取った情報等を、思考力を発揮して整理し理解する力を測る問題が、バランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	扱われる語彙・語法や文法等は、CEFRのA1～B1程度に抑えられており、受験者に極端な負荷になるようなものはなく、適切に出題されている。
(3)題材	4	日常生活から風俗習慣、社会的内容や時事問題が、幅広く、またバランスよく取り入れられており、特定の題材に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	高等学校における学習の過程が意識され、かつ、大学教育を受ける資質を問う問題として相応しい場面設定であった。
(5)問題構成	4	全て多肢選択問題であり、音声が入り流れる問題を残しつつも、可能な限り問題数や設問形式を増やしており、幅広い受験者層を適切に識別できる構成であった。
(6)表現・用語	3	問題用紙に書かれた指示文や討論の音声に、曖昧さが残る表現もあったが、話者の多様性を取り入れるなどの工夫があり、おおむね適切であった。
(7)難易度	3	状況や表現が複雑で難解な問題も部分的に見られたが、比較的平易な問題から、高度な思考力・判断力・表現力等が必要な問題までバランスよく出題され、おおむね適正であった。
(8)得点のちらばり	4	幅広い受験者層を適切に識別できる問題が数多く設定されており、得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性を反映し、全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な「聞く力」に関する学習の達成度を測るための試験として適切である。

科目名	ドイツ語
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	出題方針についての情報提供がセンター側からなされておらず、判断材料がない。思考力を問おうとする試みは感じられるが、結局は知識があれば解くことのできる出題が多いように感じた。
(2)出題範囲	3	準拠すべき基準がないため判断は難しいが、受験者を「高校で3年程度ドイツ語を継続して学んできた」とするならば、受験者に求める範囲は広いように感じた。
(3)題材	3	幅広い題材からの出題ではあったが、受験者が学ぶべき教材の種類が多いように感じた。
(4)問題の場面設定	3	場面設定のある会話形式の出題が多く取り入れられていたが、その会話のセリフの行間や発話意図を理解することが、ドイツ語の入試問題として適切なのか疑問が残る。
(5)問題構成	3	配点が5点までの出題が多く、難易度と配点が合っているのだろうか。
(6)表現・用語	3	表現・用語は適切であるが、第1問に例が必ずしも必要だとは限らない。第4問の間8は意図ではなく、発話の意味ではないか。
(7)難易度	3	学習者にとって難しい単語・表現が出題の核となっている場合があり、適正とは言い切れない。
(8)得点のちらばり	3	母集団が少ないため、統計的に意味のある分布とは思われないが、おおむね妥当な範囲だと思われる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	新入試制度第1回目の出題であるので、センター試験との違いは感じられたのだが、それらが「思考力」「判断力」を測る出題なのか疑問が残った。今後のためにどのような力を測りたいのか、双方の理解が必要だと考える。

科目名	フランス語
-----	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題に工夫があり，思考力などを発揮して解く問題を含めバランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	文法，発音，用いられている単語など学習者であれば既習の範囲であった。
(3)題材	4	現代社会に身近な題材を選び，受験者の興味・関心を広げた。
(4)問題の場面設定	4	海外生活経験の有無ではなく，読み解く力を見る問題であった。
(5)問題構成	4	バランスよく，発音，文法，多義語，長文読解と出されていた。
(6)表現・用語	4	文章表現・及び会話表現の中には，経験値を求める出題もあったが，新たに学ぶチャンスになっていた。
(7)難易度	4	易しすぎず，難しすぎず，受験者の実力を適確に判断できた。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりが見られ，受験者の実力が適正に測られていた。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	フランス語学習者の中級から上級まで，受験者全体が自分の実力（欠点も含め）を納得した形で確かめられた良問であったと思う。

科目名	中国語
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	複数の言語材料を組み合わせ思考力を問う問題が増えた。表を使った問題などは工夫が見られる。会話や文章題の空欄補充等も文法等にこだわらず、会話や文の流れを捉えさせる問題であり、概ね適切である。グラフが効果的に使われていない面も見られる。
(2)出題範囲	4	学習指導要領第2章第8節では、「その他の外国語」は「英語に関する各科目」に「準じて行うものとする。」とあり、明確な範囲が考えにくい、適切な出題であった。主要辞書の重要語等を使うなど配慮があった。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の教科書に偏っておらず、適切である。
(4)問題の場面設定	3	教科・科目の本質に照らして必然性のある形でおおむね出題されている。
(5)問題構成	4	発音・ピンインの理解・語句・表現・会話・図表の読み取り・長文読解の構成で、第4・5問では複数の言語材料が提示され、では文章量も増え、読み取るべき量が大幅に増えた。外国語の全体の傾向として適切である。試験時間と問題数のバランスも適切である。
(6)表現・用語	4	設問の仕方は適切であり、文章表現・用語の使用はおおむね適正である。設問の仕方は適切であり、文章表現・用語の使用はおおむね適正である。
(7)難易度	3	問題の難易度はおおむね適正である。受験者の特性を鑑み今後も平均点にこだわらず、適正な難易度を保っていただきたい。
(8)得点のちらばり	3	得点のちらばりはおおむね適正である。受験者の構成や科目の特性上、高得点者に偏りがみられるのはいたしかたない。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	高校の学習状況を考えて基礎的な学習の達成度や思考力が測れる問題の出題となってきた。受験者の特性や科目の特性に配慮がなされ、よく工夫しており、おおむね適切な作問がなされている。

科目名	韓国語
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	一定程度思考力を問う問題に改善されている。
(2)出題範囲	3	
(3)題材	4	
(4)問題の場面設定	4	自然なコミュニケーションに即した問題になってきている。
(5)問題構成	2	第1問の改善が求められる。
(6)表現・用語	3	共通テスト(1)の第4問の語彙に問題がある。
(7)難易度	3	共通テスト(1)の第4問の難易度が高すぎる。
(8)得点のちらばり	3	純粋な学習者のみが受験しているのではないので、判断できない。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	第1問, 第4問の改善を求める。